

事業名	近畿自動車道 名古屋神戸線 四日市JCT～菟野	事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路(株)
起終点	自)三重県四日市市伊坂町 至)三重県三重郡菟野町菅羽			延長	1.4 km
事業概要	新名神高速道路は新東名高速道路と一体となって、三大都市圏を相互に結び、人の交流と物流を支える大動脈として、日本経済を牽引するとともに、東名・名神高速道路の代替機能を果たす上で不可欠な路線である。				
H10年度事業化	H3年度都市計画決定(四日市JCT～四日市北JCT) H6年度都市計画決定(四日市北JCT～菟野)		H20年度用地着手	H22年度工事着手	
全体事業費	1,447億円	事業進捗率	8%	供用済延長	0 km
計画交通量	42,400台/日 ~ 51,800台/日				
費用対効果分析結果	B/C 事業全体 4.1 残事業 5.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 1,094/1,369億円 事業費：963/1,237億円 維持管理費：131/131億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 5,542/5,542億円 走行時間短縮便益：4,797/4,797億円 走行費用減少便益：560/560億円 交通事故減少便益：185/185億円	基準年	平成23年
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施				
交通量変動	: B/C=5.6 (交通量 +10%) B/C=4.6 (交通量 -10%)				
事業費変動	: B/C=4.7 (事業費 +10%) B/C=5.6 (事業費 -10%)				
事業期間変動	: B/C=5.3 (事業期間 1年) B/C=4.9 (事業期間 +1年)				
事業の効果等	当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連結するルートを構成する緊急輸送道路 名神高速道路 が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する 並行する高速ネットワーク 東名阪自動車道 の代替路線として機能する 他15項目に該当				
関係する地方公共団体等の意見	<三重県>近畿自動車道名古屋神戸線四日市JCT～菟野について、東名阪自動車道の慢性的渋滞解消、名神高速道路とダブルネットワークの形成、産業支援、地域活性化のため事業を継続し早期完成をお願いします。また、菟野町～亀山市間の亀山西JCTの同時フルジャンクション化と、鈴鹿PAスマートICの本線と同時供用をお願いします。				
事業評価監視委員会の意見	対応方針（原案）のとおり了承。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	・新名神の供用以降、東名阪道の交通状況は益々悪化しており、定時性確保等の観点から、早期整備の必要性が益々高まっている。 ・災害時等における代替路確保の観点から、早期整備の必要性が益々高まっている。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地取得及び工事実施中				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	今後も引き続き用地取得の推進を図るとともに順次工事着手する予定。				
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。